

// 会社の概要 (平成30年5月31日現在)

商号 アルテック株式会社
設立年月日 昭和51年5月15日
資本金 5,527,829千円
従業員数 139名 (グループ全体431名)
所在地 東京都中央区入船二丁目1番1号
住友入船ビル2階

// 役員 (平成30年5月31日現在)

代表取締役社長 張 能 徳 博
取締役常務執行役員 阪 口 則 之
取締役常務執行役員 陶 山 秀 彦
取締役常務執行役員 池 谷 壽 繁
社外取締役 宮 本 康 廣
社外取締役 荒 井 敏 明
社外取締役 中 尾 光 成
常勤監査役 藤 田 清 貴
社外監査役 石 川 剛
社外監査役 豊 島 絵

執行役員 井 上 博 行
執行役員 井 上 賢 志
執行役員 山 岸 利 光
執行役員 于 勇

// 株式の状況 (平成30年5月31日現在)

発行可能株式総数 40,000,000株
発行済株式の総数 19,354,596株
株主数 6,910名
大株主

株主名	持株数	持株比率
	株	%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	980,000	5.71
竹内正明	915,000	5.33
野村信託銀行株式会社 (投信口)	506,100	2.95
株式会社三菱UFJ銀行	505,920	2.95
関西チューブ株式会社	485,000	2.82
共同印刷株式会社	432,900	2.52
株式会社アルミネ	391,000	2.28
村永八千代	382,076	2.22
由利和久	350,276	2.04
有賀洋	335,800	1.95

(注) 1. 当社は、自己株式2,208,596株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
2. 持株比率は、自己株式2,208,596株を除いて計算しております。

// 株主メモ

事業年度
定時株主総会
期末配当金受領株主確定日
中間配当金受領株主確定日
株主名簿管理人
(特別口座の口座管理機関)
同連絡先
(郵便物送付先)

毎年12月1日から翌年11月30日まで
2月
11月30日
5月31日 (中間配当を実施する場合)
三菱UFJ信託銀行株式会社

〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)
電子公告により当社のホームページ
(<http://www.altech.co.jp/>) に掲載します。
ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告が
できない場合は、日本経済新聞に掲載します。

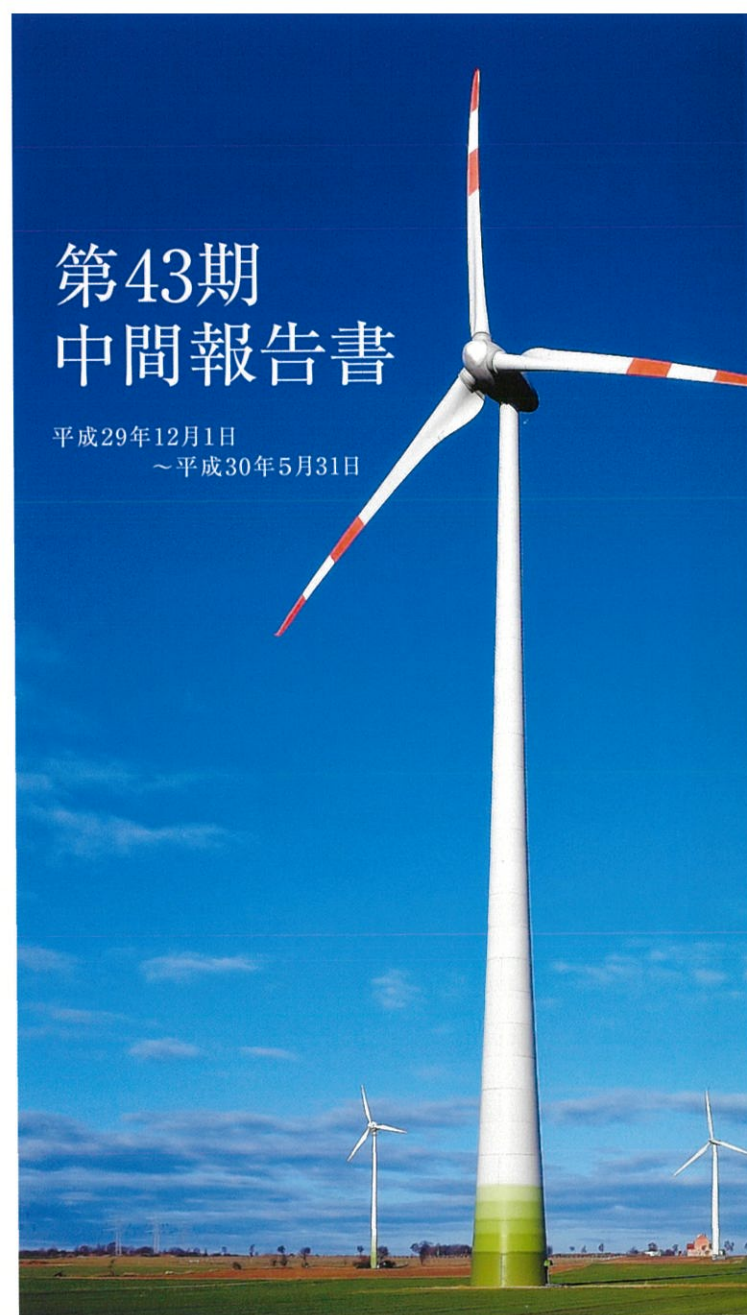
公 告 の 方 法

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

第43期 中間報告書

平成29年12月1日
～平成30年5月31日



ALTECH
アルテック株式会社

証券コード：9972



この冊子は環境への配慮のため、FSC森林認証紙と植物油インキを使用しています。

株主の皆様へ

株主の皆様には平素より格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第43期第2四半期連結累計期間（平成29年12月1日から平成30年5月31日まで）のアルテックグループの営業の概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間（平成29年12月1日～平成30年5月31日）におけるわが国経済は、各種の経済・金融政策を背景に雇用情勢の改善や設備投資の増加が見られ、引き続き緩やかな回復基調で推移しました。一方、海外においては、米国のトランプ政権の保護主義的な経済政策や中東情勢の混乱に伴う原油価格の高騰など、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような市場環境の下、当社グループは平成29年1月に策定した中期経営計画に基づくグループ経営方針の下、商社事業においては、引き続きコストコントロールを徹底しながら、継続的創出の創出を目標とする既存商権の拡大、サービスロボットやIoT等の新規商権の創出等に努めてまいりました。プリフォーム事業においては、主要市場である中国の経済成長鈍化や材料コストの値上がり等の厳しい経営環境の下、新規顧客の開拓や製造拠点の再編による固定費削減等に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,139百万円（前年同四半期比16.6%増）、営業利益は320百万円（前年同四半期比160.8%増）、経常利益は358百万円（前年同四半期比140.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は275百万円（前年同四半期比150.1%増）となりました。（セグメント別）

商社事業につきましては、主に食品製造加工機および化粧品充填機等の販売が減少したものの、印刷包装関連機械、プリンテッドエレクトロニクス関連装置および3Dプリンタ関連機器等の販売が増加し、前年同四半期に比べ増収となりました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,458百万円（前年同四半期比10.9%増）、セグメント利益は331百万円（前年同四半期比12.2%増）となりました。

プリフォーム事業につきましては、飲料用プリフォームの販売数量が増加したこと等により、前年同四半期に比べ増収となりました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,702百万円（前年同四半期比26.9%増）、セグメント利益は83百万円（前年同四半期は86百万円の損失）となりました。

引き続き株主の皆様には一層のご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

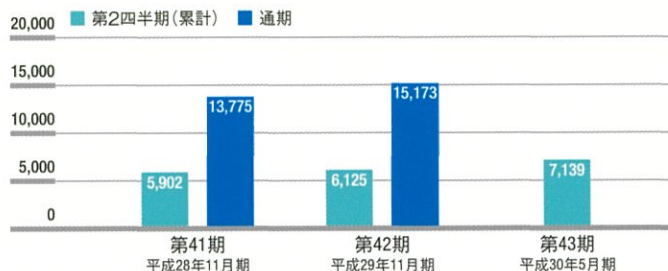


平成30年8月
代表取締役社長

張能 徳博

連結業績ハイライト

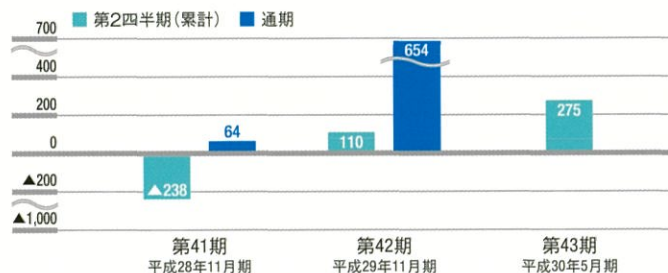
売上高（単位：百万円）



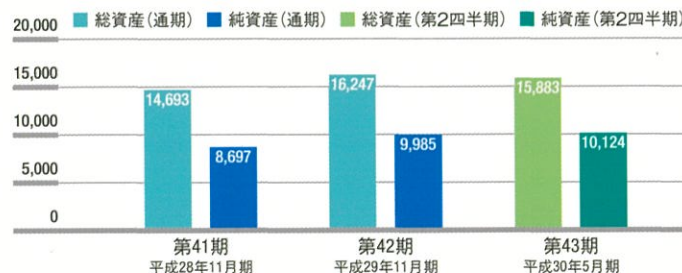
経常損益（単位：百万円）



親会社株主に帰属する当期純損益（単位：百万円）



総資産／純資産（単位：百万円）



トピックス

“物流・製造現場が抱える人手不足問題を改善・解決するソリューションを提供”

現在、物流・製造現場では、少子高齢化による人手不足が深刻な問題となっています。人手不足に対し有効な解決策として期待されているのが、人間とロボットや機械との協働です。当社は、この人手不足の解決に向け、サービスロボット・自動化システムといった人の作業負担を減らし、作業効率を上げる「自律走行型搬送ロボット」、「自動収納庫システム」や「オンデマンド自動製品梱包装置」など物流・製造現場に特化した商品を取り揃え、労働生産性の向上に貢献してまいります。

“サービスロボット・自動化システム”

◆自律走行型搬送ロボット「OTTO」(Clearpath Robotics Inc.)

OTTOシリーズは、「OTTO1500」（最大積載量：1,500kg）と「OTTO100」（最大積載量：100kg）の2種類があり、重厚な部材の搬送や、決められた場所にモノを移動するという単純・単調な重労働から作業者を解放します。また、「OTTO1500」にはパレットやコンベア、「OTTO100」にはシェルフやカートなどのオプションを連結することで、使用用途も広がり、現場の作業効率や生産性の向上を実現します。



◆自動収納庫システム (Kardex Remstar)

自動収納庫システムには、「縦型リフト式」、「縦型回転式」、「縦型バフア式」、「横型回転式」の4種類があり、フロアスペースの広さと高さに合わせて最適な形式を選択できるため、お客様のさまざまなニーズに対応可能です。作業者がモニター上で在庫品を選択するだけで、その在庫品は取出口まで自動で送られます。作業者が保管場所まで移動してピッキングするという従来のやり方に比べると作業負担が大幅に軽減されます。在庫状況もシステムで管理されピッキング精度の向上も図れます。



◆オンデマンド自動製品梱包装置 (CMC)

「CMCカートンラップ」は、さまざまな大きさや形状を有する商品についてその寸法を自動で読み取ってそれに合わせた外箱を作成、梱包することが可能であり、さらにカタログや請求書等の書類も自動で同梱できます。また、書籍や記憶メディア（CD、DVD）等の平らな小商品も対象として、高速かつ自動でクッション封筒等に封入する「CMCスマートメーカー」もあります。これらの装置はeコマース市場のニーズを取り込んで製造されたものであり、当社はこの市場にとって有効なソリューションを提供します。

